

事業所名 児童発達支援		みやのだいSEEDS		支援プログラム				作成日		2025 年		4 月		1 日	
法人（事業所）理念		＜一人ひとりの種を大切に育む＞ みんながってあたりまえ 一人ひとりの違いを尊重し、自分らしく成長できる環境を目指す													
支援方針		①＜自己肯定感＞自分らしく生きる力 ②＜第3の居場所＞子どもも保護者も安心できる居場所 ③＜連携＞学校等との連携、総合的な手厚い支援 一安心できるから挑戦でき、ちいさな「できた！」をいっぱい積み重ね、職員は子どもに共感する 一あなたがあなたのまま尊重される居場所作り、子どもにも保護者にもあったかい場所 一連携園での活動を含め、場所的な枠組みにとらわれることなく、支援の可能性を広げる													
営業時間			9時	0 分	から		17時	0 分	まで	送迎実施の有無		あり なし ※クラスによっては送迎なし			
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	＜健康＞ 自分に関心を持つ 手を洗うことや着替えなど清潔に関する心地よさを実感する（手洗い・排泄・食事・着脱の機会など） ＜生活＞ 環境的な安全、心理的な安全 失敗を否定せず、職員の見守りと声掛けにより子どもが安心して挑戦できる環境を整える（製作活動・中遊び・外遊び）													
	運動・感覚	＜運動・感覚＞ 一大きなじぶん、小さなじぶんー 体をダイナミックに使った大きな動きを楽しむ環境。指先や体の一部分を使った細かい動きを取り入れ、感覚を育む。自分なりの表現を楽しめる場を提供する。 その中で視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を総合的に使うことや、姿勢保持や力加減の調整力、バランス感覚を養う活動を取り入れる。													
	認知・行動	＜認知＞ 自分を知る 他者を知る . . . 自分の好きなこと！得意なこと！に気づくために多様な機会を提供する。小集団の中で他者と共に気持ちよく生活するために、小集団の中でのかわりを大切にし、職員も寄り添い、他者の気持ちに気づく機会を増やす。 ＜行動＞ 自分で考え、選び、やってみる . . . 子どもによる自己選択の機会を大切にし、職員の見守りの中で挑戦する機会を提供し、スモールステップでの支援を行う。													
	言語 コミュニケーション	＜言語・コミュニケーション＞ つたえる . . . 自分の思いを他者に伝えることができるように、言葉だけでなくジェスチャーや表情、行動も伝える方法として要求のみならず拒否の気持ち尊重する。 小集団でのコミュニケーションとして、共有や共感から共同注視など子ども間コミュニケーションの向上に繋げる。													
	人間関係 社会性	＜人間関係・社会性＞ 他者と社会 . . . 小集団での活動の中で、相手の気持ちを知ることやルールを守ることの心地よさを実感し、役割を担い、集団の中での一員として尊重する。外出するプログラムを取り入れ、公共交通機関や施設の利用、買い物などさまざまな体験から生活上必要な社会的スキルの向上にも繋げる。													
家族支援		・家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助 ・保護者同士の交流の機会の提供 ・支援場面を通じた学びの機会の提供 ・子どもの発達上のニーズについての気づきの促しとその後の支援							移行支援		・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達の評価と支援 ・所属学校等、併行利用先、連携園との子どもの状態や支援内容の共有				
地域支援・地域連携		・連携園との密接な交流（日々の活動、イベント、保護者向け講演会等） ・地域の未就学児を対象とした連携園での大集団への参加機会の提供							職員の質の向上		・年15時間以上/人の研修時間の確保 ・週1回の支援会議実施による子ども理解の促進				
主な行事等		・土曜日の余暇クラスにおいて月に1回程度事業所外の活動の計画 ・連携園でのフェスティバル（バザー）への参加													

法人（事業所）理念		＜一人ひとりの種を大切に育む＞ みんなちがってあたりまえ 一人ひとりの違いを尊重し、自分らしく成長できる環境を目指す								
支援方針		①＜自己肯定感＞自分らしく生きる力 ー安心してできるから挑戦でき、ちいさな「できた！」をいっぱい積み重ね、職員は子どもに共感する ②＜第3の居場所＞子どもも保護者も安心できる居場所 ーあなたがあなたのまま尊重される居場所作り、子どもにも保護者にもあったかい場所 ③＜連携＞学校等との連携、総合的な手厚い支援 ー連携園での活動を含め、場所的な枠組みにとらわれることなく、支援の可能性を広げる								
営業時間			9時	0 分	から	17時	0 分	まで	送迎実施の有無	あり なし ※クラスによっては送迎なし
		支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	＜健康＞ 自分に関心を持つ ・・・・ 手を洗うことや着替えなど清潔に関する心地よさを実感する（手洗い・排泄・食事・着脱の機会など） ＜生活＞ 環境的な安全、心理的な安全 ・・・・ 失敗を否定せず、職員の見守りと声掛けにより子どもが安心して挑戦できる環境を整える（製作活動・中遊び・外遊び）								
	運動・感覚	＜運動・感覚＞ ー大きなじぶん、小さなじぶんー 体をダイナミックに使った大きな動きを楽しむ環境。指先や体の一部分を使った細かい動きを取り入れ、感覚を育む。自分なりの表現を楽しめる場を提供する。 その中で視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を総合的に使うことや、姿勢保持や力加減の調整力、バランス感覚を養う活動を取り入れる。								
	認知・行動	＜認知＞ 自分を知る 他者を知る ・・・・自分の好きなこと！得意なこと！に気づくために多様な機会を提供する。小集団の中で他者と共に気持ちよく生活するために、日付や時間などの視覚的な提示を活用し、時間や数の概念形成を支援する。他者の気持ちに気づくように、小集団の中でのかわわりを大切にする。 ＜行動＞ 自分で考え、選び、やってみる・・・子どもによる自己選択の機会を大切にし、職員の見守りの中で挑戦する機会を提供し、スモールステップでの支援を行う。								
	言語 コミュニケーション	＜言語・コミュニケーション＞ つたえる ・・・・自分の思いを他者に伝えることができるように、言葉だけでなくジェスチャーや表情、行動も伝える方法として要求のみならず拒否の気持ち尊重する。 小集団でのコミュニケーションとして、共有や共感から共同注視など子ども間コミュニケーションの向上に繋げる。								
	人間関係 社会性	＜人間関係・社会性＞ 他者と社会 ・・・・小集団での活動の中で、相手の気持ちを知ることやルールを守ることの心地よさを実感し、役割を担い、集団の中での一員として尊重する。外出するプログラムを取り入れ、公共交通機関や施設の利用、買い物などさまざまな体験から生活上必要な社会的スキルの向上にも繋げる。								
家族支援		・家族の子育てに関する困りごとに対する相談援助 ・保護者同士の交流の機会の提供 ・支援場面を通じた学びの機会の提供 ・子どもの発達上のニーズについての気づきの促しとその後の支援					移行支援		・具体的な移行や将来的な移行を見据えた子どもの発達の評価と支援 ・所属学校等、併行利用先、連携園との子どもの状態や支援内容の共有	
地域支援・地域連携		・連携園との密接な交流（日々の活動、イベント、保護者向け講演会等） ・地域の未就学児を対象とした連携園での大集団への参加機会の提供					職員の質の向上		・年15時間以上/人の研修時間の確保 ・週1回の支援会議実施による子ども理解の促進	
主な行事等		・土曜日の余暇クラスにおいて月に1回程度事業所外の活動の計画 ・連携園でのフェスティバル（バザー）への参加								